

国府高等女学校

豊川市立高等女学校

当時の校旗発見

本年度創立百周年を迎えた豊川市の国府高校で、昭和初期に仕立てられたとみられる同校前身の国府高等女学校時代の校旗と、戦後の学制改革で統合された豊川市立高校の前身にあたる市立高等女学校の校旗が見つかった。伊与田万知校長ら関係者は「校史を知る貴重な資料」と喜んでいる。

(川合道子)



見つかった国府高女時代の校旗(手前)と豊川市立高女時代の校旗=豊川市の国府高で

国府高によると、国府高女時代の校旗は一九三〇(昭和五)年に当時の校章が制定された際に作られたとみられる。深い紫色の生

地に稲穂や三河を表す三本の線などをモチーフにした校章があしらわれている。校旗には当初「国府女」との文字が刺しゅうされていたが、戦後の学制改革で国府高と改名した際に「女」の文字を「高」に付け替え、七〇年ごろまで使われていたという。

豊川市立高女(四三年四月〜四八年三月)の紅色の校旗について資料はないが、校名が存在した戦争末期から戦後間もない時期に使用したとみられる。

国府高同窓会が創立百周年記念誌の制作を進める中、行方が分からなくなっていた国府高女時代の校旗を探していたところ、七日に加藤裕一事務長が校内の倉庫で二つの校旗を見つけた。伊与田校長は「ほころびを直し、今年十月に延期した創立百周年の記念式典でお披露目できるようにしたい」と話している。